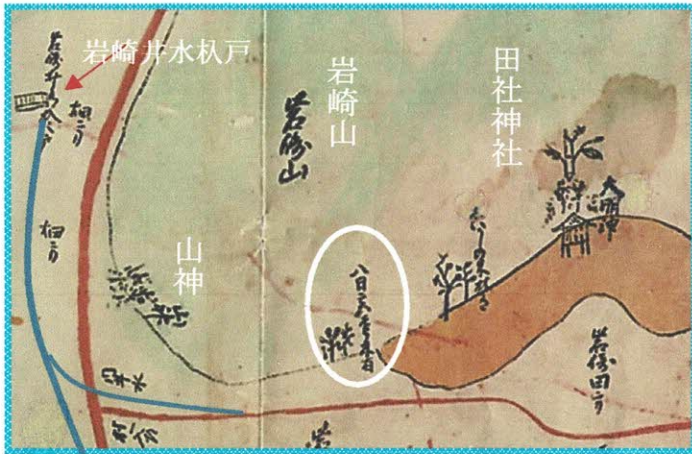
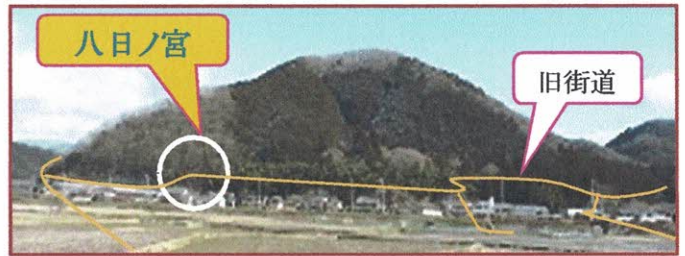


木知原の今昔!

22号:5・9・15

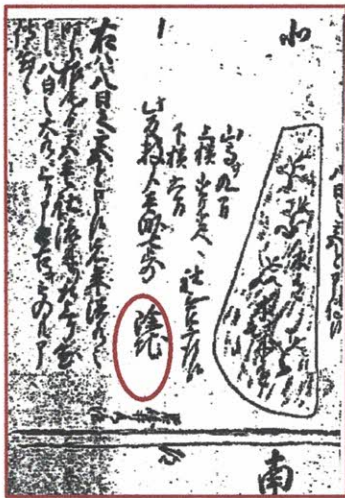
実存した八日の宮

八日の宮と言うと、亡くなられた林武典氏をよく思い出します。彼は事ある度に「八日の宮の存在や御神体が盗難にあった等の顛末を力説していた」が、周囲の者は正直余り本気で耳を傾けていなかった。私もその一人で今は“**武ちゃんゴメン**”である。その訳は最近になって八日の宮の存在を裏付ける複数の資料に接したからである。



① 地図 に画かれている

- 左図は13号で紹介した延宝5年(1677年)高辻絵図の一部を拡大したものである。
- 絵図には「八日の宮柴木有」とその存在が明記されている。雑木林の中に祀られていたので「八日の森」とも呼んでいた。
- 当時税は村に課せられていたので少しでも税が軽くなるように除地の対象である宮地は忘れず記載していたのでしょう。



右ハ八日之宮と申伝候先年洪水之時分根尾方宮一社流来り取上ゲ置申候八日の大水に上り申由古キも
の共申伝置候

② 古文書 に記録されている

- 元禄2年(1689年)に記録された「宮地五ヶ所」の記録に、八日の宮の由来・面積・地勢等が左記のように記録されている。
- 「八日の大水」とは享禄3年(1530年)の藪村が流され藪川の名が生れた大水である。
- “根尾川の大水で〇〇が・光るもの・それが**金仏・地藏尊**”といった伝説は根尾川筋の村々に多く残されている。八日の宮もその一つ。

上記の事由から八日の宮の存在は確かでしょう。「社無御座候」とあるが面積が一畝七歩もありそれなりの構えであったと思われる。場所は旧根尾道の急坂を上がりきったところで、そう言えば子供の頃民家の脇で山手に向かって手を合わせた記憶があるがそれが八日の宮だったのでは?

「八日の宮」の伝説(俗伝)とは?

「八日の宮」の本尊は根尾川の八日の大水の後に見つかった一寸五分の**金仏**である。この本尊は大変ご利益があり、連日のように遠方からの参拝者が絶えなかったそうである。ところが余りにもご利益があるためか、ある日その本尊が**盗難**にあったしまったのである。



後日その観音像が江戸浅草の浅草寺に祀られていることが分かった・・・との**あらまし!**

『まゆつば!』と思いながらも記録に残っているのでどこかで納得したりしていい話ですね。

※享禄3年の大洪水は**大雨が八日間**降り続いたことから“**八日の大水**”と呼ばれている。

※浅草寺の観音様は推古天皇の御代**隅田川**で**漁師の網**に掛り!! とあるから何処も同様!!